

● 医療と介護・福祉従事者を対象とした情報発信

医療と介護・福祉従事者の情報共有と連携に役立つ「RENKEI」



職種ごとにさまざまな専門用語があり独自に略語化されていることもあるため、相互に提供された資料を見ても意味が分からないケースがよくあります。

そうした略語の解説や意味を確認できる冊子が『RENKEI』。医療従事者用、介護・福祉従事者用があり、立場に合わせたコミュニケーションを図る際の、心得をまとめたページも組み込まれた情報冊子です。

『RENKEI』冊子についてのお問い合わせ先

電話：075-707-2250（左京連携支援センター直通）までご連絡ください。

区内医療ガイドマップ



地域の医療機関（医科・歯科・薬局・訪問看護 ST）の連絡先、クリニックの往診対応の有無など情報をまとめた冊子です。

● 地域住民への情報発信

「さきょう区民 みんなの教室」 在宅医療・介護に関する情報を発信



「ご存知ですか？ 病院って、役割が違うんです…」
～病院や病棟の違いを診療報酬の視点から～

「入院から始まる 退院後の新たな生活スタイル」

・左京区 あなたのお住まい 学区別「地域包括支援センター」一覧 等

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news

Vol. 41

2022年2月1日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Main menu

- ◆ 左京区在宅医療・介護連携支援センターの取組み (P2～4)
- ◆ 京都在宅医療塾 オンデマンド配信のご案内 (P4)

シリーズ 在宅療養を支える専門職

京都市在宅医療・介護連携支援センターのご紹介

◆◆ 京都市在宅医療・介護連携支援センターとは？ ◆◆

超高齢社会が進む現在、医療と介護の両方を必要とする高齢者の方々が、住み慣れた地域やご自宅で人生の最期まで暮らし続けられるよう、包括的かつ継続的な在宅医療と介護の提供が求められています。京都市では、市内8箇所（以下、参照）に在宅医療・介護連携支援センター（以下、「連携支援センター」という）を設置し、運営を対象エリアの地区医師会に委託しています。

各連携支援センターには在宅医療・介護に関する専門的な知識を持ったコーディネーターが配置され、地域医療・介護の資源の把握や、医療・介護従事者を対象とした相談対応や研修会の開催、地域住民への啓発など、主に医療と介護・福祉の従事者を支援する活動を行っています。

京都市在宅医療・介護連携支援センター設置状況（令和3年4月時点）

| | 対象エリア | 受託事業者（医師会） |
|---------------------------|--------------|-------------------------------------|
| 北区・上京区在宅医療・介護連携支援センター | 北区・上京区 | 京都北医師会 （協力：上京東部医師会、京都市西陣医師会） |
| 左京区在宅医療・介護連携支援センター | 左京区 | 左京医師会 |
| 中京区在宅医療・介護連携支援センター | 中京区 | 中京区在宅医療センター （中京東部医師会、京都市中京西部医師会） |
| 下京区・南区・東山区在宅医療・介護連携支援センター | 下京区・南区・東山区 | 下京西部医師会 （協力：下京東部医師会、東山医師会） |
| 山科区在宅医療・介護連携支援センター | 山科区 | 山科医師会 |
| 右京区在宅医療・介護連携支援センター | 右京区 | 右京医師会 |
| 西京区在宅医療・介護連携支援センター | 西京区（洛西含む） | 西京医師会 |
| 伏見区在宅医療・介護連携支援センター | 伏見区（深草・醍醐含む） | 伏見医師会 |

京都在宅医療塾 オンデマンド配信のご案内

配信期間：令和4年3月31日迄

動画視聴のお申込みは本センターホームページ（右記 QR 画像）にて受付中です。また詳細は順次、京都医報、当センターホームページをご覧ください。

京都 在宅医療

検索



詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

現在配信中の講演内容「実践編」

対象：医師

①心電図・心エコーを使用する前に
バイタルサインでここまで診れる
—この症状は赤信号？黄色信号？青信号？—

②知っておきたい 在宅での輸液スキル
明日からできる皮下点滴！
～在宅での高齢者の肺炎・脱水時の対応について～

③POCUS 総論

④よくある POCUS の使い方

2月15日（火）より配信の講演内容「排泄支援編」

対象：医師、多職種

在宅医療・療養にかかわる全ての職種の方が対象です

①多職種で取り組む在宅における
排泄自立支援のイロハ

②事例から学ぶ在宅での排泄支援

③そのおむつ待って！
快適な排せつを目指して

在宅医療に関する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097



今回は、左京区在宅医療・介護連携支援センター（以下、「左京連携支援センター」という。）のコーディネーターである奥田さんと齋藤さんに連携支援センターの役割や取組みについてお話を聞きました。

多岐にわたる活動内容をお伝えいたします。

◆◆◆ 医療職と介護職の情報共有と円滑なコミュニケーションへの取組み ◆◆◆

在宅療養では医療と介護の連携が不可欠であり、徐々に医療と介護の距離は縮まっていますが、まだまだ充分とはいえません。

また、医療サイド、介護・福祉サイドがお互いに知ってほしい・知りたい情報があっても共有できていないなど、医療と介護・福祉の間に距離があり、うまくコミュニケーションがとれていない現状があります。

左京連携支援センターでは、「相手が本当に求めている情報をお届けする」ということが、支援の大切な形であると考えています。そして、連携強化のためには当面2つの苦手意識（介護関係者側にある医師などの医療従事者に対する苦手意識と、オンライン利用による会議や面談に対する苦手意識）を克服することが大切であると考え、以下の取組みを実施しました。

情報交換に有用な冊子の作成

- ①地域の医療機関（医科・歯科・薬局・訪問看護ステーション）情報：左京区案内の作成
連絡先、医科、歯科では往診対応の有無。薬局では、訪問服薬指導の有無。訪問看護ステーションでは、各ステーションの特徴等を記載（P4参照）
- ②医療と介護・福祉従事者の情報共有と連携に役立つ情報冊子「RENKEI」：医療従事者用と介護・福祉職用を作成（P4参照）

コロナ禍での ICT を利用したコミュニケーションへの支援

研修会や懇談会をオンラインで開催したほか、サービス担当者会議への医師の参加促進と介護職が苦手とする医師との交流の機会を増やすことを目的とした「サービス担当者会議のオンライン化のための研修会」を区事業者連絡会・京都府介護支援専門員会と共同開催しました。

◆◆◆ 地域の特色に合わせた連携支援への取組み ◆◆◆

充実した資源を活かした最適なマッチングときめ細やかなサポート

約30年前から、左京区では全国に先駆けて、医師会や在宅ケアの従事者・行政を中心に地域ケアの取組みが実施されてきました。その活動が土壌となり、現在に活かされた結果、左京区には横のつながりが確立しているので、連携はスムーズに行えています。

一方で左京区全体で見ると医療機関の数は多いのですが、地理的に南北に長く、北部では気軽に受診出来ない地域があります。そういった地域をどのようにカバーするのも大きな課題です。

別の課題として、個々のケアマネジャー（以下、「CM」という。）が利用者に紹介する医師が固定化している傾向があり、このことは、先生方への負担や偏りを招いています。CMに幅広く先生方の情報を知ってもらう事が重要で、その発信を左京連携支援センターが担っていく必要があると考えています。

医療機関の紹介では、同じ診療科であっても、医師によって（細かな）専門領域が異なり、『この疾患であれば、この先生に診てもらった方が良い』ということがあります。また、患者さんやご家族との相性もあります。そうしたさまざまな面を考慮しながら相談頂いた方の選択肢の枠が広がり最適なマッチングができるよう、きめ細かいサポートを心がけています。



◆◆◆ 地域住民への情報発信と啓発事業 ◆◆◆

地域住民への情報発信も重要な役割で、いくら質の高い在宅医療や介護サービスを受けられる環境が整っていても、それを地域のみなさんに知っていただき、利用してもらわなければ意味がありません。

必要な情報をわかりやすい形で届ける工夫として、在宅介護をされた当事者のコメントを紹介して解説するスタイルの冊子を作成中です。

国の方針として地域包括ケアが推進され徐々に環境は整ってきていますが、地域住民の意識の面ではまだ浸透していないのが実情です。実際に左京区においても大学病院をかかりつけ医にして通院されている患者さんも多く、地域のクリニックを紹介すると『見捨てられた』と受け取る場合もあります。こうした状況を改善するため、地道で丁寧な啓発活動を展開していきたいです。

◆◆◆ 今後の展望は？ ◆◆◆

医科に留まらず歯科・薬局との連携強化を目指す

まず、統合失調症などの精神疾患をお持ちの方に地域でどう関わるか、ひいては未受診の方をどうやって医療に繋げていくかなどに、研修の企画などを通じて取り組んでいきたいです。

連携強化という意味では、歯科や薬局の先生方も高い関心を持って尽力されているので、左京連携支援センターとしてもいろいろな場面を通じて協働していきたいと考えています。

持続可能な連携支援の仕組みづくり

長期的には、持続可能な連携支援の仕組みづくりを目指したいです。仕組みづくりの最初の時期は熱意ある個人の尽力によって制度の不足を補ったり、仕組みのあり方を探求することが不可欠ですが、そうした努力を重ねるうちに、最終的に誰もが持続的に恩恵を受けることができる安定した仕組みを構築したいと考えています。

具体的には、医療の情報と介護の情報が常に更新された状態で、必要な方が常に活用できる制度やシステムの構築と医療と介護の連携ノウハウが確立され、次の世代にも引き継がれていくような形を目指したいです。

京都市内の連携支援センター間の情報共有と連携した事業展開

また、左京連携支援センターで情報収集した資料や発行物について、他の連携支援センターにも提供し参考にしてもらうことで、情報提供の格差が少なくなり、京都市全体の質向上につながると考えています。その思いは、他の連携支援センターも同様で、そのための試みとして、市が主催する連携支援センター業務連絡会とは別に、連携支援センターコーディネーター会議を開催しています。うまくいかなかったことも含め、様々な意見を出し合うことで、地域の特性に合った支援につなげられるよう議論しています。



コーディネーター
齋藤 和久 様



コーディネーター
奥田 敏雄 様

連携支援センターの役割や名称についてまだまだ浸透していない現状もありますが、第1に地域の各種団体・事業所や異業種の方達の風通しが良くなるよう、連携を支援する拠点として、また第2に地域住民の皆さんに、安心して住み慣れた地域の医療情報や在宅での療養・医療などについて分かりやすく伝える発信基地として前進していきたいと考えています。

